



夏の実践研修会のご案内



期 日 令和7年8月6日（水）8：50～16：00

内 容 ・午前 公開授業（国・算）＋ 教科別授業研究会（国・算）
熊本県国語教育研究会と熊本市算数教育研究会、附属小国語科と算数科による公開授業と教科別授業研究会です。
・午後 各教科等授業づくりセミナー

【日程】 8:30 8:50 9:00 9:45 10:00 10:45 11:00 12:15 13:30 15:55 16:00

受付	開会 行事	公開授業Ⅰ		公開授業Ⅱ		教科別 授業研究会		各教科等授業づくり セミナー（各60分）			閉会 行事
		国語（附属小） 算数（市算研）	休憩	国語（県国研） 算数（附属小）	休憩	国語 （県国研×附属小） 算数 （市算研×附属小）	昼食	ユニット 1	休憩	ユニット 2	

申し込み 参加費（資料代）は1000円。（来校で一日参加される場合） 一日対面参加の方 午後オンライン参加の方
午後の各教科等授業づくりセミナーはオンラインでも公開します。
（オンライン参加は無料）右のQRコードからお申し込みください。



申し込み切 令和7年7月31日（木）

※ 締め切り日以降も申し込みは可能ですが、資料準備のため、ぜひ事前申し込みをお願いいたします。なお、締め切り日以降にお弁当の注文はできません。

後援 熊本県教育委員会
熊本市教育委員会

令和7年度 研究発表会のご案内

期 日 令和8年2月14日（土）

附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ続々登場!!

● 実践・研究ブログ

臨場感あふれる各教科の取り組み
を随時更新します。



ホームページ

<https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/elem/> 熊大附属小 検索

研修会・講師に関する お問い合わせ先

校内研修や研究会
の講師として本校
教員をお考えの際
は、電話か次のア
ドレスにお問い合わせ
下さい。



tkoga@educ.kumamoto-u.ac.jp

（教頭 古閑 敏之）

ご挨拶

本校では、昨年度まで4年間にわたり、「学びをたのしみ自律共創する子ども」の姿を目指し、研究を重ねてきました。昨年度は特に、子どもたちが、対象世界に没頭するたのしさ、仲間とともに作り出すたのしさ、自分なりの意味や価値を見いだしていくたのしさを味わうために、「教師の役割」を問い直すことを中心に研究を深めました。

研究発表会でも、「教師の役割」を再考する視点から、ご参会の皆様とともに協議を深めることができました。子どもたちが主体的に学ぶ中で、学ぶことのたのしさや喜びを感じ、自己調整しながら学びを深めていくための「教師の役割」について、皆様とともに理解を深めることができたのではないかと思います。

昨年12月に出された中教審諮問「初等中等教育の教育課程の基準等の在り方について」の中でも、新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方が主な審議事項の1つとして取り上げられています。学習者が自ら学習を調整しつつ資質・能力を身に付けることの重要性やその中で教師が発揮すべき指導性について、今後の答申の中でどのように明らかにされていくのか興味深いところです。

本年度も、夏の実践研修会及び研究発表会を予定しています。ぜひ、多くの皆様にご参加いただき、皆様とともに、課題解決に向けた議論が深まれば幸いです。本年度もよろしくお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 塩村 勝典

教科等研究紹介

つなぐ、拓く、 附小の教育

研究部長 上原 正士



昨年、本校は創立150周年を迎えました。記念行事とともに刊行された150周年記念誌には、これまでの研究テーマが掲載されています。今からちょうど半世紀前、昭和50年の研究テーマは「子どもから出発する授業の創造」でした。現在のすべての職員も常に立ち返ろうとしている基本理念が、この頃から提唱されていたことに驚きと深い感慨を覚えました。

それから平成に入ると『わたし』を育てる豊かな学び」「学びが好きになる授業」など、より一人一人の子どもの内面に寄り添う探究が進められました。さらに、「みんなで伸びる授業」「豊かな対話」「真正の学び」などを通して、子どもたち同士が学び合い、高め合う力を育む授業づくりへと歩みを広げていきました。

そして、令和には「粘り強くともに学ぶ子ども」「学びをたのしみ自律共創する子ども」という目指す子ども像の下、子どもたち一人一人が主体的に学びに向かい、仲間と支え合いながら学びを創り出す力を育む授業づくりに取り組んできました。

今、熊大附属小は新たな節目を迎えています。それは、国際クラスの新設に伴う新たな学びの在り方の模索と、これまで本校が大切にしてきた学びとの融合という局面です。「変えること」と「変えないこと」を、一つ一つ吟味しながら問い直し、子どもを真ん中において議論し、新たな研究テーマを掲げて発信と研究のさらなる深化を図ってまいります。これからの歩みも、どうぞ温かく見守っていただければ幸いです。

国語科

言葉に立ち止まり「創造」をたのしむ子どもの姿を目指して

木下 忠志 廣田 健生 岩崎 兼司



昨年度も表現と理解を往還する学びのプロセスを研究してきました。3年「モチモチの木」では、『豆太語り』という言語活動に取り組みました。人物になって性格について語り、互いの表現を見合い、妥当性を検討する場を設けたことで、「自分も…」と豆太と自分を重ねる姿がありました。

言語活動に取り組む際、人物・読者など視点を意識できるようにしたことで、経験と結び付けて想像を広げ、言語活動をつくりかえる姿が見られました。一方、全体の中で見いだしたつくりかえの視点が、必ずしも個々の表現に生かされてはいませんでした。そこで今年度は、全体と個の学びのつながりを意識し、個々の「表現と理解の相互循環」の活性化を促すための見取りの手立てや目的意識等の「言語意識」を組み込んだ言語活動デザインを研究していきます。

生活科

見方を広げていく子どもたちの姿を

芦原 玲子



1年生「ねんちょうさんとなかよし大さくせん!」では、年長児と継続して関わっていく中で、子ども自身が相手意識や目的意識を明確にしなが、年長児の立場で考えたり試行錯誤を重ねたりする姿が見られました。

本校生活科では、今年度も子どもたちの思いや願いを大切にしながら、一人一人の気付きの質が高まっていくことを目指します。そこで、追究し続けたいくなるような課題設定や環境構成の工夫、子ども同士の関わり合いを生み出す手立てについて探っていきます。また、活動を通して自分のよさや成長を実感できるような手立てについても重点を置きたいと考えています。対象や他者と繰り返し関わることで得られた気づきを基に、見方を広げていく子どもたちの姿を目指します。

社会科

子どもが自ら社会と関わり続ける社会科学習

白石 和真 安倍 堅介



社会的事象を「自分事」として捉える子どもの姿とは、どのような姿なのでしょう。5年「森林とともに生きる」の単元で、森林保全のために自分たちができることについて、単元を通して考えていきました。その中である子どもが「まずは森林について知ること自体が、森林保全のために私たちにできる第一歩だと思う。」と述べました。これは、子どもたちが森林保全を「自分事」として捉えていることを表す発言だったように思います。

本校社会科では、単元導入で既有の知識とずれが生じる資料の提示や体験的活動等を行った上で、よりよい社会を目指すための主題を子どもたちと設定することを大切にしています。その主題達成のために試行錯誤する中で、社会との接点を見だし、自ら社会と関わり続けていこうとする子どもの姿を目指します。

音楽科

よりよい音楽表現を追究し続ける子どもの姿を目指して

馬場 美香



5年生「和音進行に合わせた旋律づくり」では、テレビから呼びかける演奏動画とこたえる教師の生演奏を鑑賞し、「呼びかけとこたえを使った演奏をしたい」と意欲を高めました。演奏時の「伴奏と旋律が合わない」という困り事を出発点に、トーンチャイムを使って和音の響きや移り変わりを実感し、まとまりのある音楽づくりを友達と工夫しました。

本校音楽科は、子どもが音楽の学びをたのしむことができる魅力的な教材の開発と、自ら学びを切り開いていく子どもを育むための手立てについて研究しています。今年度は「友達とやってみよう」と思える題材導入の工夫やつながりの中で深まる音楽づくり、既習事項を意識した題材構成、自分の伝えたいことに合う楽器や表現を選択できる学習環境の工夫を追究します。

算数科

共に数学的価値を見いだす算数科授業

内田 武瑠 津川 郷兵 嶋崎 昂



1年「数のまとまりを見付けよう」において、14個や18個のムクロジの種を2・3・6個のまとまりに分けていく中で、子どもたちは、等分できる時とできない時があることに気付きました。日常の場面を数学化することで、自由に種を配ることから数のまとまりを見付けて等分することへ焦点化され、数学的表現を用いたり、数を変えて考察したりする姿を引き出すことができました。

本校算数科では、子どもたちが問いや思いをもち、繰り返し対象や他者と対話する中で共に数学的価値を見いだす姿を目指します。そのために、より数学の本質に迫るような学びの文脈をデザインする課題設定の在り方や、自他の数学的表現に働きかける対話を生み出し、課題解決に向かうための教師の手立てについて研究を進めていきます。

体育科

動きのよさを共有し、共に高め合う姿を目指して

西 沙織 山本 祐之介 富永 悠真



昨年度は、子どもたちの学びの伴走者になれるよう、教師の役割について研究を進めてきました。6年の表現運動では、見ている人にテーマが伝わらないという困り事をもつチームに対し、子どもたちが無自覚だった動きの変化に対しての声かけを行うことで、動きのよさを自覚し、それを視点として試行錯誤する姿が生まれました。また、相互鑑賞の際にはその視点をを用いて他チームと関わる姿につながりました。

本校体育科では、それぞれの納得解を見付けていく過程で、自分の動きについて振り返ったり、友達の動きについて考えたりすることを大切にしています。そこで今年度は、学級全体での学びが促進するために、教師が子ども一人一人を見取り、それをどう生かしていくかについて、研究を進めてまいります。

理科

子どもが自然事象に関わり続ける姿を目指して

柿原 智明 吉田 沙也加 境目 貴秀



6年「かけがえのない地球環境」の単元で、自然環境について考える講座を班ごとに企画・実施しました。お互いの講座を受ける中で、自分が調べたり考えたりした事を基に、「水資源を守る点から考えると、今まで挙げられた以外の他の方法も考える必要がある」と、多面的に人と自然のよりよい関わり方を探る姿が見られました。

本校理科では、子ども一人一人が思いをもって自然事象に関わり続ける姿を目指し、単元構成等を工夫しています。さらに今年度は、得られた結果を基に、友達と共に追究を深めるための工夫に着目し、研究を進めていきます。

図画工作科

一人一人がつくりだす喜びを味わう授業を目指して

安田 晶子



昨年度は、図画工作科が、形や色とイメージをつなぎながら創造的な活動を重ねていく教科であることを踏まえて、一人一人がつくりだす喜びを味わえるよう授業づくりを進めてきました。その中で、道具とつながる場づくりや一人一人の実態を意識した声かけの有効性を確かめることができました。

本年度は、より探究的な創造へと向かうための手立てについて、研究を進めていきます。題材ごとに材料や用具などの造形環境を調整しつつ、子どもの実態をより細やかに見極めながら一人一人の育ちを促す声かけや支援を考えます。その中で、試行錯誤しながら工夫していく姿、友人との関わりの中で相互に認め合い、高め合う姿、そして、つくりだす喜びを味わう子どもの姿を目指します。

附属小職員一人一人が語る！

個人研究は
ここから



明日の学びをもっとたのしく！

過去の実践は
ここから



特別の教科・道徳

「なりたい自分になる」子どもを育む道徳科授業

山平 恵太



昨年度、6年生「ロレンゾの友達」の実践で、3人に自分たちの友情観を重ね、3通りの友情観の違いに着目して話し合いました。これまでは「真の友情とは」に焦点化していく実践が多いのですが、本実践では「信頼」される自分になりたいという子どもの思いに寄り添い、3人の違いだけではなく共通する考えを取り上げたことで、なりたい自分を更新する姿につながりました。

本年度は「なりたい自分になる」子どもを育むために、学習過程の中でも、他者と関わる場を充実させます。そのために、関わりたいという思いの見取りと、育ちに着目した1時間に閉じない見取りをし、さらに他者と関わらずにはいられない状態を生みだします。そして価値、他者を媒介として、なりたい自分を広げ、深め、なりたい自分になる姿を目指します。

外国語活動・外国語

コミュニケーションの「おもしろさ」と「大切さ」とは

福永 真紀子 弘島 智世



昨年度の外国語活動・外国語科では、子ども自身が学習活動の意味やつながりを見だし、それらを意識してコミュニケーションを図ることができつつありました。その一方で、やってみたコミュニケーションを振り返るよさを感じたり、それらをもとにして次の活動に取り組んだりすることに対しては課題が残りました。

そこで今年度も、子どもが必要感をもって学ぶことができる題材設定と、主体的に活動することができる学習環境の工夫を考えていきます。それに加えて、子どもの困り事に寄り添う課題設定や振り返りの在り方についても研究を進めていくことで、表現の多様さに気付いたり「外国語で伝えてみたい。』『分かってほしい。』と願ったりする子どもの姿を目指します。

保健・健康教育

健康に関わり続ける子どもの姿を目指して

村上 朋美



6年「病気の予防」の単元では、自分の今の行動が将来の健康に関わりがあることを理解した上で、生活の様子を見直し、自分が今実践できる健康行動は何かを考えました。未来の自分を思い描く中で、健康に関わり続けることの価値を見いだし、年齢や状況に合った情報を選び、必要な健康行動を自分で選択して判断した上で生活に取り入れようとする姿が見られました。

本校の保健・健康教育では、子どもたちが、自分や友達の行動のよさに積極的に目を向け、健康に過ごすことの価値を見いだす学びを大切にしています。今年度は、保健の授業と日常生活や学校行事、学校保健委員会等の様々な場面を関連させ、発達段階や生活の状況に合わせて自分の学んだことを表現し生かす場を設定することで、健康に関わり続ける子どもの姿を目指します。

栄養・食育

「食べること」を大切にできる子どもの育成を目指して

上月 直美



昨年度は、発達段階や学習の積み上げに応じて題材を選択したり、単元構成を工夫したりすることで、継続的な学びにつながるようにしました。3年生「見つけよう!元気になるごはん」の実践では、オリジナル給食だよりを作成しました。既有知識や生活経験を基にした話し合いの場を経て、栄養教諭が情報を整理し、子ども自らが食べ物の働きへの理解を深め、自分の食べ方について考えることができました。

今年度も小学校6年間の学びを見通しながら、学年ごとに設定した重点目標を基に学年間の系統を大切にしていきます。さらに、自分の食生活を多角的に見つめ、よさや問題点に気づき、意思決定していくことで「食べること」を大切にできる子どもの姿を目指します。